

じゃっど

平成 15 年 2 月 18 日



ビデオ画面を見ている子供たち(サイセタ郡ナーハイ小学校)

ラオス視察も、11回となり、2回目の参加の方が3人もいらして、それぞれが新しい仲間を連れてきてくださいました。大変うれしかったです。ありがとうございます。

リピーターが多いことから、現地集合とできたので、私は楽しさせていただきました。また、ハプニングが少なくてすみません。しかし、到着日も出発日もばらばら、ラオスで行きたい所の希望もばらばらと多種になりました。ガイエンチャンの吉田さん、藤島さんの二人は、スケジュール管理が大変だったと思います。現地でお世話になっているラオス人、日本人の皆様との食事会も、1回では全員をご招待できずに、2回に分けて行われました。1回は、”じゃっど”事務局の庭で行われました。ラオスの一軒家を借りているのです。大家さんとは、庭続きです。藤島さんの知合いということで、安くで貸していただいています。”じゃっど”の活動は、人と人のつながりで、続いています。今回は、活動視察のほかに、塩田や市場を見学したり、ラオス人の生活を見せてもらったり、ラオスの生活を少し擬似体験できたのでは。

3月15日の報告会を皆様お楽しみに。ぜひ、ご家族、お友達をお誘いの上、おいでください。会員では、ない方にもラオスを知っていただきたいです。また、途上国の生活を知ること、今の日本の生活を考えるチャンスにして頂ければと思います。報告会だけの参加也大歓迎です。(帖佐理子)

今回、名古屋市からツアー参加された森田正人さん(医師)の感想を記載いたします。
他の参加者の報告は、3月15日の報告会后、次回の新聞でお知らせします。

6年ぶりのラオスツアー

森田正人

僕はやっぱりラオスが好きである。なにより人の良さ。食べ物がおいしい。暖かく、いつもマイペースなまち。とても安心する。旅行誌にも書いてあったが、癒される場所である。

6年前、長崎大学時代にじゃっどを級友に紹介してもらい、初めてラオスを訪れた。その時にも、いい所だと感じていた。もう一度、訪れたい場所 No.1 だった。今まで、アメリカ、インドネシア、中国、タイ、香港、サイパン、モンゴルなど旅行したが、ラオスが一番安全で、過ごしやすく、安心できる国である。もっともじゃっどのラオスツアーが、小学校を訪れたり、病院を訪れたり、現地の人と密接に関われるところが、ツアーの満足度を高めているのだと思う。

JICA の専門家の方が、中華料理店の会の席で、ラオス人はこの 30 年間、ほとんどその人間性を変えていないとおっしゃっていた。日本のように、時代の流れが速く、世代のギャップを感じてしまうことを考えると、うらやましく感じる。そしてすごいことだと思う。やはりラオスでの国際協力、その人間性を損なわない形で行われなければならないと思う。ラオス人は不幸そうではない。それほど飢えてもいない。むしろのんびりしていて幸せそうに見える。この 6 年で、ラオスの中に、日本の援助で、立派な病院が出来ていた。素晴らしいことだが、これからもラオス人を幸せにする方向で、病院が運営されていくことを望む。そして小学校の状態もよりよく発展していくことを望む。

今回も、充実したツアーを経験させていただいて、帖佐先生をはじめ、皆さんにはとても感謝しています。自分もリフレッシュできました。皆さんありがとうございました。

ラオス便り 2 月号

報告者 藤島美由紀、吉田いつ子

こちらラオスでも肌寒い日が続いておりましたが、2 月に入りまた暑さが戻ってきました。1 月の末にこちらの政府への中間報告書の提出を済ませ、あと検便を 2 回こなすだけとなりました。

先日、今回行なっているプロジェクト評価のため、学校の先生、村長さんから今まで私達が行ってきた活動について聞き取り調査をしました。その報告をしたいと思います。

➤ **小学校教師対象のワークショップ**

- ・ とても役に立った。ワークショップの後に、教師が子供たちに正しい手の洗い方や教室、校庭、トイレを掃除することを子供たちに教えることができた。

➤ **検便**

- ・ 第一回目は便を採ることは子供たちにとって初めてのことであったので、とても難しかった。
- ・ 何人かの子供はどうしても便を持ってくることができない。子供たちの親の協力が必要だと思う。

➤ **駆虫薬投与**

- ・ 特に問題はなかった。駆虫薬をのんだあと、腹痛などの不快症状を訴える子供はいなかった。
- ・ 薬を飲んだあと、便と一緒に虫が出てきた子供が多くいた。
- ・ 子供たちの両親は薬を飲ませてくれたことに感謝している。なぜなら、子供が以前より、ご飯をたくさん食べるようになり、元気になったから。実際に体重が増えた子供が多くいる。

➤ **健康診断**（郡病院スタッフによる診察及び、2ヵ月毎の体重測定）

- ・ 2ヶ月毎に体重を測っているので、子供たちがどのくらい体重が増えているか知ることができる。
- ・ 親達が子供の健康や発育について関心を示すようになった。それだけではなく、学校に対してもとても協力的になった。

➤ **PTAとの話し合い**（郡病院スタッフによる寄生虫とその感染予防に関する説明）

- ・ 衛生に関する知識を得るとてもよい機会になった。もっとこのような機会を増やして欲しい。
- ・ 家に自分達のトイレが欲しいと思う人が増えた。
- ・ タイ肝吸虫（生魚などにいる寄生虫で、感染すると肝硬変をひきおこす。）を恐れる親が多くおり、その説明をしてもらえたのでよかった。タイ肝吸虫の治療薬も配って欲しい。

➤ **トイレ、自転車ポンプ**

- ・ 子供たちがとても喜んでトイレ、自転車ポンプを使っている。今では校舎の裏や藪で排泄する子供はいなくなった。

- ・ 最初は教師がトイレの使い方を子供たちに教えた。それ以降は、全ての子供が正しくトイレを使っている。
- ・ 学校にはトイレがあるが、まだ全ての家庭にトイレがない。何軒かで共有して使うなどの工夫が必要。(ナテ村では 125 セットのトイレ建築資材を UNICEF から寄付されるので、ほぼ全世帯トイレを保有できるだろう。)
- ・ 自転車ポンプはチェーンが時々ゆるんでしまうので、調節する必要がある。

➤ 保健教育教材 (WHO ゲーム、ポスター)

- ・ WHO ゲームとその副読本は子供たちが寄生虫や衛生について知識を得るのにとっても役立っている。子供たちがとても気に入っている。ゲームは休憩時間に使われることもあるが、授業の一環として定期的に利用している。
- ・ このゲームを学校だけではなく、家に持ち帰り友達や兄弟と遊びたいと言っている子供がいる。
- ・ 子供たちの行動や態度にも変化が見られるようになった。汚い遊びをしなくなった。子供たちは寄生虫に感染するのが怖いので手を洗う、靴を履く、より清潔な方法で食事をするといったことを実行するようになった。
- ・ 学校で得た知識を家に持ち帰り、今度は両親に教えるようになった。

➤ トイレ、教室清掃チェックリスト

- ・ トイレ、教室の状況を記録し報告するのに役立っている。またチェックリストがあることで教師が点検することを忘れずにいられる。

➤ 健康カード

- ・ 両親が子供たちの健康状態を知るのにとっても役立っている。何人かの親は健康カードの結果を見て子供を病院に連れて行っている。
- ・ 親だけではなく、教師が担任をしている子供たちの健康状態を把握するのに役立っている。今まで教科のひとつとして健康や衛生面についてとり上げることはあったが、それはただ教科書の中に書かれている事をよんでいるだけであった。それが今回、クラスの中に栄養状態が悪い子供が何人いるか、寄生虫を盛っている子供が何人いるかということが目に見える形となり、とても身近な問題として感じるようになった。

以上のようにとてもよい評価を学校の先生、村の人たちからいただきました。ラオスの人は人を非難したりすることを忌み嫌うので、否定的な意見はまず出てこないのですが、その点を考慮したとしても、ある程度の成果があったといえるのではないかと思います。

プロジェクトはあと約 4 ヶ月残すばかりとなりました。この間、私達が取り組まなければならないことは、まずトイレ、自転車ポンプのメンテナンスの問題があります。今まであまり大きな問題は起きてはいませんが、小さなトラブルがよくおきます。例えば、チェーンが弛んでしまったり、自転車のサドルが折れてしまったり、ポンプの車輪が外れてしまったり…。運がいいことに、今私達の活動のお手伝いをしてくれているラオス人のマイさんは、自転車ポンプに関しては多くの経験をもっています。なぜかという、じゃっど会員でもある木内さんが専門家としてラオスにおられた時、自転車ポンプを 4 つ取り付けられ、そのメンテナンスのために一緒に廻ったことがあったからです。だから何か起こるとすぐになおしてくれます。しかし、この技術を何とか学校の先生あるいは村の人に伝えていかなければなりません。自転車ポンプの改良に携っていただいた工学部の先生方にマニュアル作りとメンテナンス講習会開催を依頼しているところです。



折れてしまったサドル

メンテナンスに励むマイさん

またそれに加えて現在行なっていることは、衛生教育に関する絵本作りです。ラオスに絵本を送る会というNGOの協力を得て、英語で書かれた“Dirty water”, “Flies”という絵本を、ラオス語に訳し、話の内容や主人公をラオスの状況に合わせてアレンジしていま

す。この作業はもう間もなく終了し、絵本が完成します。子供たちの手に絵本が届き、そして私達の活動が子供たちの手によって引き継がれていくことを願っています。

国内活動

- 1月7日(火) 鹿児島県立阿久根農業高等学校の田中先生(家庭科担当)
事務所訪問；家庭クラブ収益金の一部を机、いす募金に寄付
- 1月20日(月) ジャっど会 出席者(古田、久木野、小幡、西谷、増岡、帖佐)
東京(宇田川さん、堀内さん)からのツアー報告参加可能な日に
報告会をすることに決定
- 1月22日(水) 新九州電力労働組合鹿児島支部(ボランティア活動の助成金について)
に帖佐会長、古田副会長が訪問
- 2月5日(水) 会員の三本晃子さん事務所訪問；小規模パートナー事業の会計事務の
お手伝いを帖佐会長が三本さんに依頼
- 2月7日(金) 公益信託 今井記念海外協力基金申請事業に応募し、申請書提出
- 2月10日(月) 川内市立川内小学校(田畑先生担当)の職員
事務所訪問；川内小学校児童会から机、いす募金に寄付
- 2月26日(水) 加世田市立加世田小学校年6年生の「総合的な学習の時間」の講師として
帖佐理子会長講話
- 3月15日(土) ラオス視察ツアー報告会；報告者：宇田川国男さん、堀内恵子さん、
小幡順子さん、神崎絢子さん、帖佐理子さん
- * 3月のジャっど会は3月15日の報告会後の食事会に変えさせていただきます。
次回のジャっど会は、5月19日(月)になります。

【事務局からのお知らせ】

- * **ジャっど事務のお手伝いをしてくださる方を募集しています。**
現在、ニュースレターの編集、印刷、発送などを、会員の三本さん、増岡さんにボランティアでお手伝いいただいています。少しのお時間でも結構です。どなたか、
お手伝いいただけますか？
- * **ジャっどのホームページを神崎侯至さん、神崎絢子さん親子で作成中です。**

感謝の気持ちとともに、ご支援ご協力くださった皆様のお名前を記載させていただきます。
(以下敬称略)

新規会員(2002 年 12 月～2003 年 2 月)

木場眞一(東京都)、金田英子(長崎市)

平成 14 年度会費(2002 年 12 月～2003 年 2 月)

上床久子、上床聖子、安永健次郎、(株)ハートフル、森卓朗、神彰男(平成 16 年度会費)、
(川内市)、松元美津子、松野広樹(鹿児島市)、金田英子(長崎市)、友野順章(ラオス)
河野通子(出水市)、

寄付金(2002 年 12 月～2003 年 2 月)

伊東正樹(伊集院町)、江口紀子、神彰男(川内市)、河野通子(出水市)、小山内美江子、木場眞一(東京都)、坂巻嘉昭、小原澤栄子、徳永年子、村方千鶴(ラオスにて)、森田正人、隅田英憲(名古屋市)

机、いす募金(2002 年 12 月～2003 年 2 月)

大毛順子、赤塚唯一、川平紗恵子、川平梨香子、重吉さおり、永峰健太、若林祐佳
(隼人町)、徳留孔佐、徳留杏菜、松川祐斗(国分市)、阿久根農業高等学校(阿久根市)、
森田正人、隅田英憲(名古屋市)、川内小学校、安部良宣、(川内市)、宇津木 和夫、宇津木和子、堀内恵子、宇田川国男、木場眞一、井田友子、井田清花、宮原元美、坂野悦子、二瓶公輔、石川敦子、酒井文人、智子、輝男、中村正吾、萩野哲男、(東京都)、加世田小学校(加世田市)、上野輝雄、上野昌子、(薩摩郡)、

皆様のご協力で、ラオスの布、小物、塩、T シャツなどの売り上げ金が約 2 万円(12 月～)ありました。ラオスでの活動資金になります。これからも、ご支援よろしくお願いします。

まだ、平成 14 年度(平成 14 年 7 月 1 日～平成 15 年 6 月 30 日)の会費を納入していない会員の方は、納入の程よろしくお願いします。

じゃっど事務局

電話、FAX ; 0 9 9 6 - 2 7 - 1 0 9 3

e-mail asianoko@ml.satsuma.ne.jp

鹿児島県川内市神田町 1 1 - 2 0 若松記念病院内

会長 帖佐理子 事務担当 宮脇美智子

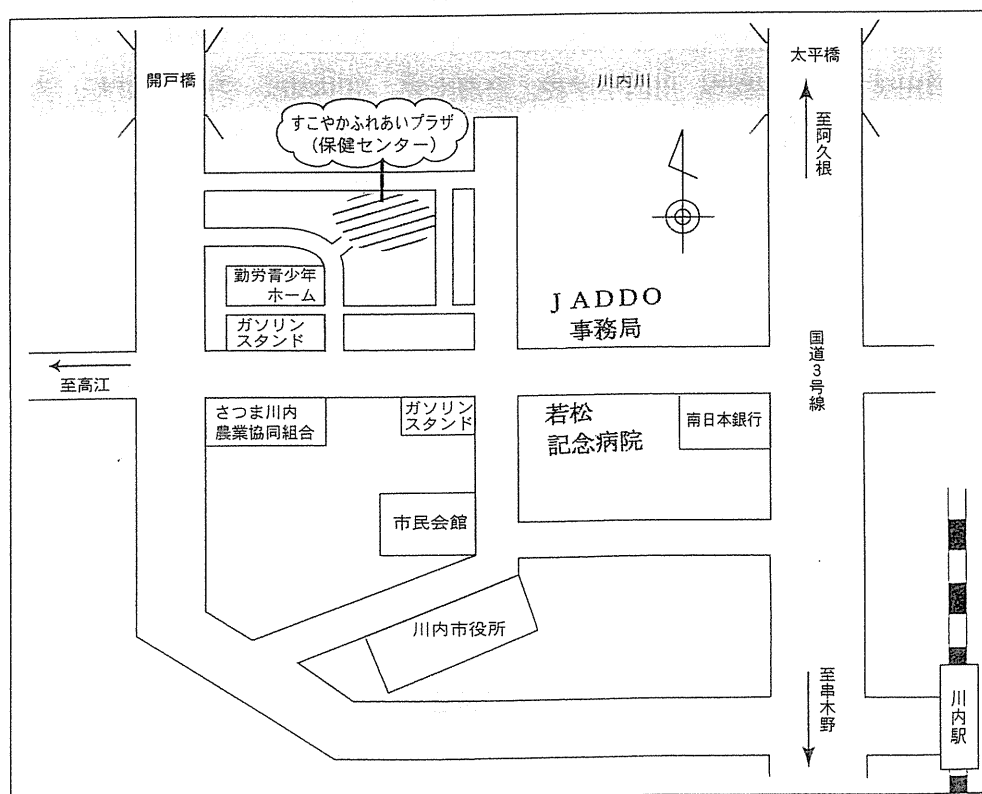
ツアー報告会のお知らせ

ラオス視察ツアーの報告会を下記の日時で行いますのでご参加の程宜しくお願い致します。

日時：3月15日(土) 17:00~18:30

場所：すこやかふれあいプラザ(2F:第2会議室)

☎0996-22-8811



☎アジア雑貨・じゃっとオリジナルTシャツ・天然塩の販売もしてます

※尚終了後食事をうなぎのやまげんで致しますのでご希望の方は当日受付に申し出てください。食事代 1000 円です。